

巻 頭 言

「書店ゼロの街 2割超」このような見出しで始まる記事が、8月24日の朝日新聞一面に載った。記事によれば、1896ある自治体（市町村・行政区）のうち、地域に書店が一店舗もない「書店ゼロ自治体」が、4年前に比べてその数を一割増加させ420に達したとされ、三面では「変わる街 かすむ書店の存在感」の見出しの下で、各自治体の実情や官民一体となって書店を誘致した自治体の実例が紹介されていた。記事の中では、2000年の書店数21654が今年の5月現在で4割強も減少した12526にまでなったとされ、その要因として人口減や活字離れ、雑誌市場の縮小、ネット書店の伸長等があげられていた。

このうちの活字離れについては、少し前になるが、文化庁の「国語に関する世論調査」（平成25年度）での読書についてのアンケート結果が、活字離れを裏付けるデータとなっている。例えば一か月に何冊くらいの本を読んでいるかとの問いに対し、1～2冊の人が約35%、3～4冊が約11%であった一方、1冊も読まないとの回答が47%を越えており、また約65%の人が読書量の減少を自覚していた。ただし興味深いのは読書量が減っていると思いながらも、一か月に1冊以上読む人の約77%が、1冊も読まない人でも約55%の人が、読書量を増やしたいと考えていることで、活字離れを自覚しつつも読書を好ましく思う傾向は依然強いようにも思われる。

このような潜在的な読書志向を意識しているのか、書店では購入意欲を喚起するような様々な工夫が試みられてきた。例えばその一つとして、ジャンルを超えて本を置く独自の棚作りがあげられる。テーマや内容の関連を重視した文脈棚と呼ばれる棚の提示や、店長が推奨する書籍を並べるコーナーの設置等、来店者の関心をそそる個性的な棚作りが、多くの書店で展開されている。期待されるのは本と本、本と人との新たな繋がりであり、ネット書店のレコメンド機能からは得られない発見が見出されるかもしれない。

本号で13冊目となるこの紀要には、冒険的な書店の棚のように、個々の論考の優れた成果だけではなく、誌面には各論考の結集から生まれた力も強く現れている。それぞれ専門性は異なるものの、近代文化研究所の所員が近代文化全般を研究対象に多様な視点から掘り下げていく姿勢は共通している。複数の学問領域を集結させた研究所が、従来の枠組みを超えた発見をもたらす場として機能し、その成果を発信し続けることを願っている。

（近代文化研究所長 猪熊 雄治）

執筆者紹介（五十音順）

安蔵 裕子（あんぞう ゆうこ）教授 「東京府レース製造工場における国産品の制作」（共著）学苑911, 2016年／「昭和女子大学光葉博物館所蔵『弁護士の法服』について」学苑887, 2014年／「二つの朱印船貿易絵図にみる服飾描写について」菊池誠一編『朱印船貿易絵図の研究』思文閣出版, 2014年／「昭和初期の新聞・雑誌記事にみる『銘仙』について」学苑863, 2012年／「笹岡家が語る衣文化回顧録―笹岡洋一氏・照子氏聞き書き―」学苑827, 2009年／「唐招提寺所蔵 国宝『方円彩糸花綱』の実態解明―編成組織と技法的特質―」（共著）、国際服飾学会学会誌 No. 17, 2000年／「神戸市立博物館所蔵『泰西王侯騎馬図』の系譜について―服飾描写の視点から―」、国際服飾学会学会誌 No. 16, 1999年

磯野さとみ（いその さとみ）准教授・博士（学術）「昭和初期の台所改善に関する研究（3）―福岡県学務部社会課が昭和3年に出版した『農村台所改善の現状』の掲載内容について―」学苑899, 2015年／「昭和初期の台所改善に関する研究―福岡県学務部社会課が出版した『農村台所改善の現状（第四輯）』の掲載内容について―」学苑887, 2014年／「昭和初期の台所改善に関する研究―『農村台所改善の現状（第三輯）』の掲載内容について―」学苑875, 2013年／「福島県が昭和6年に刊行した『生活改善指針』について」学苑815, 2008年／「昭和初期の台所改善と生活改善同盟会」学苑778, 2005年／「昭和3年に開催された福岡県主催の生活改善展覧会について―住宅関係の展示を中心に―」学苑755, 2003年

黒川 智子（くろかわ ともこ）平成21年度大阪芸術大学芸術学科卒業生 平成25年度昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科歴史文化演習受講生 「史料紹介 鈴木莊六『西比利亞日記（一）』（共著）学苑911, 2016年／『安積得也関係文書目録』（共著）国際基督教大学アジア文化研究所, 2013年

西脇 和彦（にしわき かずひこ）教授 「岡本太郎の方法論に関する社会学的一考察―ホットな弁証法によるBreakthrough―」学苑911, 2016年／「産業構造の高度化をめぐる社会学の考察 I～II」学苑895, 907, 2015-2016年／『ブックレット 近代文化研究叢書9 高度成長期の生活文化―新聞記事にみる郊外の団地・ニュータウンの視点から―』昭和女子大学近代文化研究所, 2013年／『ブックレット 近代文化研究叢書4 昭和30年代の生活世界―生活マンガの視点から―』昭和女子大学近代文化研究所, 2005年／「マス・サブバーピア考I～VI」学苑704, 715, 726, 748, 853, 887, 1998-2014年／「1970年代以降の日本社会（1）～（4）」学苑829, 865, 881, 922, 2009-2017年

堀内 正昭（ほりうち まさあき）教授・博士（工学）「旧近衛輜重兵大隊営内における射撃場建築（世田谷区池尻）の復元的考察」学苑921, 2017年／「三田演説館の建築史を紐解く」近代日本研究32, 2015年／『ブックレット 近代文化研究叢書10 初代国会仮議事堂を復元する』昭和女子大学近代文化研究所, 2014年／『カラー版西洋建築様式史』（共著）美術出版社, 1994年／『18世紀の建築―バロックと新古典主義』（翻訳）鹿島出版会, 1993年／『人工楽園―19世紀の温室とウィンターガーデン』（翻訳）鹿島出版会, 1991年／『明治のお雇い建築家エンデ&ベックマン』井上書院, 1989年

松田 忍（まつだ し のぶ）准教授・博士（文学）「史料紹介 鈴木莊六『西比利亞日記（一）』（共著）学苑911, 2016年／「史料紹介 安積得也『第二號栃木縣陣中口授日記』」学苑899, 2015年／『ブックレット 近代文化研究叢書11 雑誌『生活』の六〇年: 佐藤新興生活館から日本生活協会へ』昭和女子大学近代文化研究所, 2015年／「史料紹介 安積得也『第一號栃木縣陣中口授日記』」学苑875, 2013年／『系統農会と近代日本: 一九〇〇～一九四三年』勁草書房, 2012年／『新生活運動と日本の戦後: 敗戦から1970年代』（共著）日本経済評論社, 2012年／「『生活』の時代, その源流（小特集 大正一〇〇年（上））」日本歴史769, 2012年